

第五二回定例村議会

久寿軒中学校統廃合に引  
 続き川口中学校も大杉中学  
 校へ統合する事が去る四月  
 十四日の臨時村議会で決定  
 授業（一年と二年で一学級  
 川口中学校は現在生徒数三  
 十九名で二学級編成の複式

明年までは大杉中分室

久寿軒中学校統廃合に引  
続き川口中学校も大杉中学  
校へ統合する事が去る四月  
十四日の臨時協議会で決定  
された。  
川口中学校は現在生徒数三  
十九名で二学級編成の複式  
授業（一年と二年で一学級

会場では、かねて準備中

三谷村長

私の村政に対する考え方や、  
やり方につきましては過去  
六年間の実績を通じて、す  
でに皆様方から大に願つて  
いるところで、特に變つた  
行き方がある訳ではありま  
せんが、この従来からの村  
政運営に更に反省を加へ、  
覺悟を新にして村民福祉の  
向上に邁進することを、こ  
こに改めて明らかにし、村  
民の負託に応えたいと考  
へるものであります。

もとより私自身は微力な  
者として至らぬ者ではあり  
ますが、それだけに常に心  
を正して何時にても出所進  
退の覺悟を堅持し、議会は  
じめ村民の声を素直に承り  
、まじめに村政を執行しな  
ければならないと常に考へ  
て

展に併行して今後一そう、  
その歩調を早めて行く必要  
があると思ひます。

この為には村民の英知と  
能力のすべてを村内に包蔵  
する環境と資源のすべてを  
開発し調和のとれた本村の  
前進を圖らねばならぬと考  
へます。

改めて申上げるまでもな  
くその前提にたつものは村  
行政の一体化「和の精神」  
に基く村作りへの、村民一  
丸となつた努力であり、さ  
らには村財政が健全でな  
くはなりません。

村民所得向上に努力を  
御承知の如く近年におけ  
る急速な國家經濟の成長に  
反し、本村の財政を支える  
産業構造の貧困性は益々較

村長 三谷泉水

る」にあります。すでにかかる理念自体が本村の如き後進地域においては空文となっていて中央政府の財源措置と等しいことを認めざるを得ないのであります。このために私は困難ではあります。私のものつ政治性を十分に發揮して国及び県からの地方交付税、そしてまた一方村財政以外において政府資金、県の資金による村の開発をしなければならぬという私達の考えたい目的には達することができないと存じますが、今後またこれの方向を推進するつもりであります。

和三五五年度においても年間一億五千万円に及ぶと存じますが、これに村の投資する一億の予算と合してすべて村民の所得を向上し、民生の安定に資することはやがて村の収入を増し、更には村の自主的な事業をふやして村民の生活に奉仕することになると信じ、且つ

であり教育効果の向上は、従って教育委員会で久寿軒中学校と同様統合象校として地元関係者との協議、説明会を持っていくものでも、この程圓滿解決点を見出すことが出来たのである。

三月三十一日付で川口中学校は廃校としたが現内容に於いては大杉中の分室として明年三月末迄授業を行い三十七年四月一日から大杉中の方へ通学が始められる間、川口中はかつて六・三年前発達當時の昭和二十二年の大杉中へ通学していたのであるが、当時は川口中

大橋も出来ておぼろぎ遠隔の地からの通学が難しくなつて来て昭和二十五年四月から大杉中の分校にして川口で授業を始めたが二十七年の四月から独立して現在に至つたものである。

同校は明治三十四年五月に金一千三八八円也で平屋建六十四坪の校舍を新築しその後増改築と運動場の拡張など続けられていたが昭和四年に再び校舍を新築したしかし昭和十二年九月に台風のため、校舎が倒壊したため、同十四年十一月に復旧して現在に至っている。

便を感じていたものであるが此度の改善により飛躍的な進歩をとげた。

例えば一つの係に届をするのと自動に他の関係係のもとにまわり記録帳を帳簿施され、仕組中であり、また書類等も集中管理が行なわれ係が在役でも、すぐ用件が足りるなど、大へん能率的になつて来たわけである。

また、この事務改善に伴い課、室の統廃合、新設及び人事異動などが掲掲の通り四月一日を期して行なわれた。

(写真はビジュアルコーダを備えた庁舎内部)

|              |           |        |          |
|--------------|-----------|--------|----------|
| 任主事          | 笠原精一。     | 用人     | 小笠原須藤川。  |
| 義孝。主事        | 長江笑子。     | 大杉保育所  | 所長（兼）    |
| 田村仍智子。事務員    | 森下        | 任保母    | 小倉繁子。保母  |
| 辰雪。上村恭子。     | 小松        | 西岡千津子。 | 西村広子。    |
| 藤子。用人        | 長江架繁於。    | 代用保母   | 外波山桂子。調  |
| 稅務係長         | 三好元昭。主事   | 理士     | 門田ヒデ。用人  |
| 鎌倉倉安。        | 大利美砂。     | 濃トメ。   |          |
| 鍋橋由山。        | 平尾美砂。主事   | 議會議事務局 |          |
| 補佐々木昭十郎。     |           | 事務局長   | 三谷博親。書記  |
| 民生課          |           | 杉本信量。  |          |
| 社会福祉、社会保障、保健 |           | 農業委員會  |          |
| 衛生、労働に關すること。 |           | 事務局    | 山中瀧。書記   |
| 課長           | 重森元龜。課長補佐 | 西岡富美子。 | 笹岡桂助。    |
| 保健係長         | 大地寿穂。主任   | 教育委員會  |          |
| 主事           | 都築幹夫。主事   | 教育委員長  | 長野政高。教育長 |
| 西盛興。         | 岡崎桃子。主事   | 職務代理主事 | 小笠原俊信    |
| 田集一。         | 秋山和義。原    | 總務係長   | 村田忠雄。主事  |

役場では、かねて準備中  
 こうすることが私達村政を  
 あずかる者の大いなる責任  
 であると存するものであり  
 ます。

役 場

最新機械を入れて  
 事務改善を実施

であった事務改善を四月一  
 日より実施し始めた。  
 これは段々と複雑増大化  
 して来た行政事務を改善し  
 て一層能率をよくし住民に  
 対するサービスを強化する  
 ため行なわれたものである  
 一日からはビジブルコー  
 ー(幾百枚かの分類され  
 たカードが収められてい  
 る金属性の箱)や電動記録  
 算機(二十三万円)、カネ  
 タイプ(九万八千円)など  
 総計二〇六万円にのぼる機  
 械器具が設備され事務の近  
 代化が一層充実にした。  
 この設備費に対しては国  
 から百万円の補助があった。  
 従来、役場という所は明治  
 大正以来の原始的な事務機  
 構であって、事務にたずさ  
 わる職員にしても、利用  
 する住民にとっても大へん

|               |              |
|---------------|--------------|
| 小笠原英彦。秋山正治。   | 公民館          |
| 〃今井千津子。事務員    | 主任主事         |
| 朝             | 平尾俊一郎。主      |
| 日麗子。          | 事 今井一清。      |
| 經濟課           | 家政高女         |
| 農業、工業、商業、林業、  | 校長 吉川喜美。教諭上村 |
| 水産業、土木、建築に關する | 和子。津野良子。講師   |
| のこと。          | 谷村寛子。華岡トミ子。  |
| 課長 山崎義高。課長補佐  | 給仕           |
| 産業係長 河野茂樹。主事  | 東豐永中学校       |
| 阿佐嘉浩。近藤明。立    | 三谷笑子。        |
| 山美代。          | 大杉 岩戸藤衛。豐永   |
| 建設係長 前田波穗。主事  | 村美登利。大田口 下元和 |
| 岡崎聰。上村忠。西岡    | 校。           |
| 慶治。島村美津子。森    | 小学校          |
| 下盛男。          | 西峯 笹岡登志子。大砂子 |
| 住民課           | 豐永時子。大杉 川村安伏 |
| 戸籍、住民登録、外國人登  | 久壽軒 大石花子。天坪  |
| 録及び主食の配給に關する  | 久保都子。東豐永 伊藤  |
| こと。           | 代子。岩原 下村千代子。 |
| 課長 西村憲義。課長補佐  | 大田口 鈞井晴喜。西豐  |
| 住民係長 三村利重。主事  | 柳村菊子。川口 石川光  |
| 笹岡松子。大崎降子。    | 立川 小笠原キヨ。穴内  |
| 西岡香代子。        | 小笠原秋子。       |

四月一日人事異動発令

新設、税務は総務へ  
四月一日人事異動発令

役場では四月一日からの  
務改善に伴い新に企画室  
民課を設け税務課を総務  
へ統合した。

現在の室及び課等の内容  
配置されている職員名は  
の通りである。

納室（三役を除く）  
入、支出及び物品の保管  
払いに關すること。  
長補佐、出納員 宮本興  
分任出納員、小笠原陽

企画室  
の重要な施策の企画調査

統計広報、予算及び財政  
般に關すること。  
室長 渡辺盛男。主任主  
三浦健一。々西岡仁司。主  
事松下健一。

総務課  
職員の進退及び身分に關  
ること。議及び村の行  
一般に關すること。村税  
び村税に係る税外收入に  
すること。財産安全管理  
關すること。その他の課  
主管に属しない事項。

課長 小笠原武英。課長  
佐庶務係長 松高豊繁。

西豐永支所 支所長心得 松岡行雄。主任主事 原紀代美。主事北村茂利。分任出納員 永野秀晴。主事 三村悅子。天坪支所長 支所長 大石盛男。主任主事 西岡鶴美。分任出納員 上村幸彦。東豐永保育所 所長 岡林住衛。主任保母 坂本みさ子。保母 大石泰子。川村幸子。調理士 長松龜喜。用人 前田広子。大田口保育所 所長 橋本晴喜。主任保母 横田敏子。保母 前田喜代恵。都築恵美子。高野文子。調理士 西川貞子。

な 業 く 杉 予 四 を 上 の に

主任主事(兼) 小笠原精







# 七百九十万円を要し

## 有線放送完成

### 四一〇戸が受益

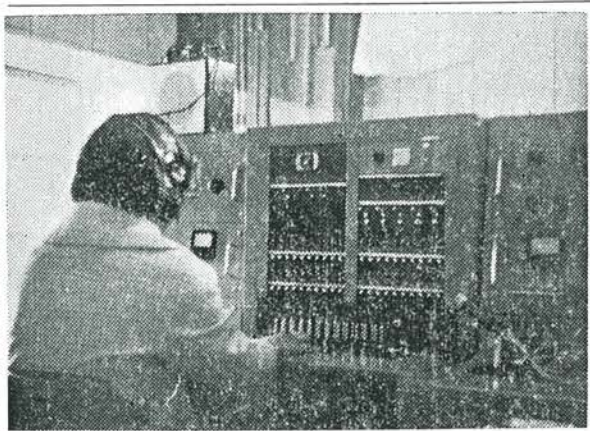
大杉農協

大杉村第一地域（大杉・天坪）の新農村特別助成事業として実施していた大杉農協有線放送施設は、このほど完成し、去る四月二十二日役場会議室で盛大な竣工式を行った。

この施設は交換放送設備を農協に置いて組合員の設置しているテレビジョン・スピーカーを通じて電話交換及び一斉放送を行うもので、他の農協と異なり屋外にスピーカーを設置していない。

総経費は七、九三三、二四八円で、そのうち国庫補助が三、八五二、〇〇〇円、加入者負担が四、〇〇〇、〇〇〇円であって一戸当たり一万円以上の負担となっている。

中には二万円以上負担した家もあるが、これは設置希望者が約三〇〇戸程度であったが、工事開始より急速



写真一上 交換台・下右 放送機・下左 録音機

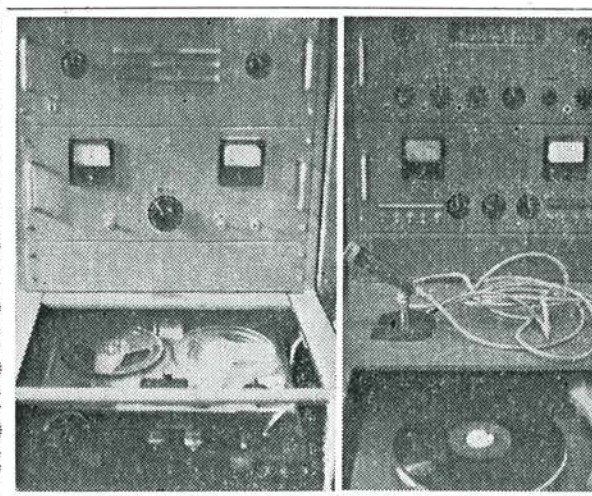
に増え始め現在四一〇戸に達している。

交換室は農協二階の一室で、工事が特に優秀で交換設備のほかにレコードプレーヤー・ラジオ付録音機が一体となつていて、総合型金型製である。

り、県下では始めの一の優秀施設であつて、県官からも賞讃の言葉を受けた程である。

これで村内にも立川、東豊永を除き、有線放送施設が完備され村民生活向上に一段の飛躍をもたらすことになった。

尚、これを追々と村全体で



# 大田口消防分団

## 専用車を購入

大田口消防分団（団長上村勝繁氏）ではこの程消防ポンプ、団員を運搬する目的で消防自動車を購入した。同分団では年間十五、十六回の出動があり、手持ちポンプ三台（一八、一二、七急送車）や団員を現場に急送する専用車が無く、その都度、民間車で間に合せていたが、全部出はらって居ない場合もあつて一分を争う時でもあり弱つていたが、この悩みを解消す



# 西豊永地区

## 長寿会誕生

会長に山中利信氏

大田口で西豊永地区長寿会が誕生し、去る四月十八日、森正永氏宅で盛大な発会式を行った。

これは都築栄氏、山中利信氏、森正永氏らが発起でお互いの旧交を温め将来の健康を祝う意味で発足したもので現在、会員は十三名、最高年齢の人は七十七才、最低は六十五才である。同席上で新会長に山中利信氏、副会長に森正永氏が選ばれた。



# 村議会

## 議長に鈴木氏再選

大杉村議会の議長、副議長及び各常任委員会の委員長副委員長は申し合せによる任期が来たので去る議会の最終日三月二十八日にそれぞれ改選した。

議長は引続き鈴木友茂氏が、副議長は北澤氏に代つて門田仁一氏（東豊永選出）が新に選出された。

各常任委員会は次の通り。

議長 鈴木友茂氏  
副議長 門田仁一氏  
大杉村議会の議長、副議長及び各常任委員会の委員長副委員長は申し合せによる任期が来たので去る議会の最終日三月二十八日にそれぞれ改選した。

# 大田口 小島、森両氏の表彰祝賀行なわる

大田口の森正永氏（六十五才）と小島清利氏（七十四才）の受表彰祝賀会が四月二十六日、平日、夜、平食堂で三谷村長を初め関係者を多数招き、大田口が出席して開かれた。

森氏は高知県連合会理事として全国消防連合会会長より、また小島氏は消防団長として国家消防庁長官よりそれぞれ永年勤続功勞で表彰を受けたものである。

小島氏は消防団に關係して現在迄に四一六年六月、森氏は消防団で二年間を勤続されている。

# 部会長

## 永年勤続で秋山氏（川口）

大杉村部会長（八十四才）は去る四月十八日、役場会議室で行なわれた。

# 県農試

## 山間分場長 移動

昭和二十九年に設置された県立農業試験場山間分場の初代分場長として山間地帯の問題と取り組む、大杉村にとつて大きな裨益をもたらした牛窓晴一氏はこのたびの移動で本場へ移動した。後任には本場から尾崎孝氏が赴任された。

# 会長に

## 豊永美鹿子さん

大杉村婦人総会 改選など行なつた。前村本会長は都合により早くから辞任せられていたもので、今度新に豊永美鹿子さん（大久保）が会長に選ばれた。

同時に副会長（地区会長）も次の通り再選した。

天坪地区 西岡澄子  
大杉地区 門脇勇喜  
西豊永地区 豊永美鹿子  
東豊永地区 三谷久野



# 短 信

三月三十日に卒で四月十六日は区内一区でそれぞれ火災があった。毎月お盛んなことが情無い。

区内の時には丁度その夜映画の為、早目に本館主事が登つて行った所、火災の真最中に出来い映写技師変じて消防夫になり大急ぎで消火につとめ映画どころの騒ぎではなかつた。

中央公民館は新型映写機を二十六万円で購入し、今後の視聴覚活動に一段の充実を加えた。

議事事務局も最新の録音機一台を購入した。すべて押ボタン式で能のよい事驚くべきものである。

部落公民館の建築が盛んになつてきた。栗生が定福寺の横に建築中。上・下棟、安野々、柚ノ木にもその計画があり、おそろしく本年度中は、それぞれ新築落成されるであろう。

村立保育所は大体定員通りの乳幼児が入所したが大杉保育所は定員八十名以上に申込みが殺到し機本所長さんが断つて廻るのに汗だくだくだ。

役場の物好きが時々内酒豪番付をつくるが、村長さんが一番強く、この数年來横綱の地位が不動だにしない。上位陣に内迫する下位力士の中には積古が過ぎて体をこわすものが多い積古は程々に……。



